

海外進出安全衛生情報交流会

医療従事者目線のベトナム労働安全衛生と
現在のベトナム医療事情

AGRIEX Co.,Ltd. 幾島 章仁

HOLUSベトナム法人AGRIEX、ラムドン省より労働安全衛生の優れた取り組みを表彰

労働安全衛生管理体制の強化と職場環境改善への継続的な取り組みが評価される

株式会社HOLUS 2025年5月13日 11時10分



日本農家と共にベトナムで農産物の栽培および食品製造を手がけ、日本へ輸入・販売を行っている株式会社HOLUS（東京都渋谷区、代表取締役：阿部秀昭、以下、HOLUS）は、ベトナム現地法人AGRIEX（アグリエックス）は、2025年4月25日、ラムドン省にて開催された「2025年労働者月間および労働安全衛生行動月間」開始式において、労働安全衛生活動における優れた取り組みが認められ、ラムドン省人民委員会より表彰されたことを発表いたします。



表彰式の様子

会社紹介





多彩な加工工程

揚げ

焼き

蒸し

茹で

天ぷら
味付け惣菜
飲茶

先進の冷凍技術で新鮮さをお届け



ワーカー 650人

職員 150人

女性 80%

少数民族 30%



本日の内容

1. 医療従事者目線の労働安全衛生
2. プレゼンティーズム
3. 現在のベトナム医療事情

本日の内容

1. 医療従事者目線の労働安全衛生
2. プレゼンティーズム
3. 現在のベトナム医療事情

医療従事者目線の労働安全衛生

- ✓ 歯科医師として入社
- ✓ 保健室の管理を担当
- ✓ 毎日の利用記録をチェック
- ✓ 見えてきたのは工場そのものの

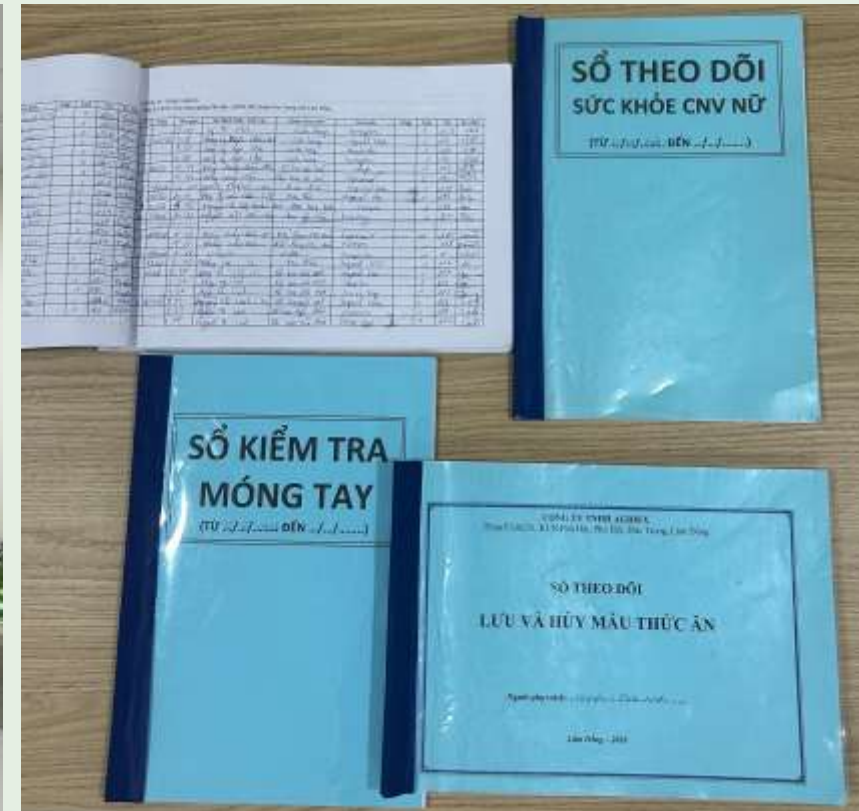
【保健室は安全衛生の情報が集まる場所】

保健室の設置基準

【野菜の冷凍加工工場の場合】

従業員数	医療従事者	場所 / 体制
300人未満	1名の看護師	応急処置体制
300人以上 500人未満	1名の看護師	活動スペースを確保
500人以上 1000人未満	2名の看護師	保健室の設置
1000人以上	1名の医師、1名の看護師	保健室の設置

保健室の役割



保健室の役割

- ①体調不良者の対応
- ②ケガ人の応急処置
- ③衛生用品の支給

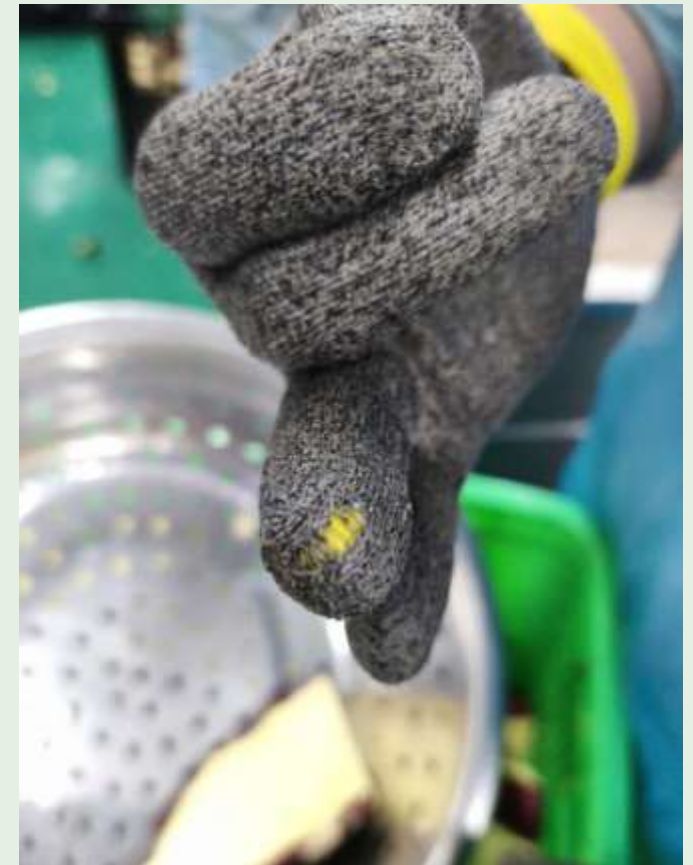


保健室の役割

- ①体調不良者の対応
- ②ケガ人の応急処置
- ③衛生用品の支給



ケガ人の応急処置





ハインリッヒの法則



切り傷、打撲
やけど

ベトナム人にとって



ハインリッヒの法則



1月～6月
18件

1月～6月
18件

事故に対する社会的認識の違い



AEDの普及



日本 70万台前後

ベトナム 1000台前後

AEDの普及

【設置の意味】

- ✓ ベトナム人従業員に命の大切さを伝える
- ✓ 行政や周囲の企業に対して、AED設置のロールモデルとなる
- ✓ 風評被害を避ける

保健室の役割

- ①体調不良者の対応
- ②ケガ人の応急処置
- ③衛生用品の支給



体調不良者の対応

保健室の来院理由

	風邪		腹痛		血圧		頭痛・めまい		他症状		他理由	
5月	201	27.2	143	19.4	9	1.2	129	17.5	37	5.0	219	29.7
6月	233	28.5	156	19.1	10	1.2	148	18.1	34	4.2	236	28.9

感染のしやすさ

ベトナム > 日本

ベトナム人の生活習慣

インフルエンザやコロナになっても

会社や学校を休まない

ベトナム人の生活習慣



ベトナム人の生活習慣

✓ 病院よりも薬局



集中力の低下

- ✓ 労働生産性の低下（判断力・作業効率など）
- ✓ 注意力の低下（事故のリスク）
- ✓ 周囲への影響

本日の内容

1. 医療従事者目線の労働安全衛生
2. プレゼンティーズム
3. 現在のベトナム医療事情

なぜ社内で口腔ケア活動？

- ✓ 美味しく食べて欲しい → 歯の健康が大切
- ✓ 歯が健康 → 全身の疾患予防

「AGRIEXで働くと健康になれる」

- ✓ 論文多数 口腔内環境が悪いと労働生産性が下がる

プレゼンティーズム

Presenteeism

WHO 2003年

【病気や体調不良のために本来の能力を発揮できない状態で
労働者が職場にいる時間において、低下している生産性のこと】

「出勤しているが、健康問題が理由で生産性が低下している状態」

2025 年 10 月 7 日

報道関係各位

【医療関連事業】

日本の労働者における労働生産性に関する研究成果が
『Journal of Occupational Health』に掲載
～幅広い疾患が生産性に与える影響を大規模データで可視化～

大塚製薬株式会社(本社:東京都、代表取締役社長:井上 眞、以下「大塚製薬」)は、当社が主導した日本の労働者における診断疾患別の労働生産性に関する研究の成果が、日本産業衛生学会の学術誌『Journal of Occupational Health』に掲載されたことをお知らせします。

(文献: 英語のみ [Work productivity by diseases diagnosed among workers: a study using large-scale claims data and survey data of workers in Japan | Journal of Occupational Health | Oxford Academic](#))

本研究「日本の労働者における診断疾患別の労働生産性:大規模レセプトデータと労働者調査データを用いた研究(日本語副題)」は、大塚製薬と DeSCヘルスケア株式会社(本社:東京都、代表取締役社長:瀬川 翔、以下「DeSCヘルスケア」)が共同で、日本における疾患毎の労働生産性の実態を明らかにすることを目的に実施し、疾患別の労働生産性とその損失コストを評価しました。本研究は、日本の多様な職種に従事する31,540名の就労者を対象に、健康保険レセプトデータとアプリを介した健康調査データを組み合わせた大規模データベースを用いて、DeSCヘルスケアと共同で実施しました。

本研究の分析を踏まえた主要結果

(アブセンティズム＝疾患による欠勤、プレゼンティズム＝出勤しているが心身の不調によって業務効率が低下している状態)

- 男女ともにうつ病、不安障害、片頭痛などは、有病率が低くても、プレゼンティズム、アブセンティズムともに高い結果であった。
- プレゼンティズムに大きく影響していたのは、男女ともにうつ病、不安障害、統合失調症、双極

報道関係各位

2026年5月19日

ファイザー株式会社

ファイザー株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:五十嵐啓朗)は、本日、働く人の片頭痛に関する経済損失額試算および意識調査の結果を発表しました。

本調査では、月4日以上頭痛または片頭痛の症状で日常生活に支障をきたしている20～69歳の就労者1,040名を対象に、片頭痛による経済損失額を試算し、また、仕事・家庭・私生活への影響や、受診に至らない理由を可視化しました。その結果、症状を抱えながらも無理をして働き続けることによる「生産性低下・見えない時間損失」が、個人にも社会全体にも大きな影響を及ぼしている可能性が示唆されました。主な調査結果は、以下の通りです。

【調査結果の主なポイント】

- 働く人の片頭痛に起因する経済損失額は、年間「約1.5兆円」にのぼる
- 片頭痛の症状が出て無理をして働く最大の理由として、「市販薬の使用や我慢で何とか勤務できるから」と回答した割合が約75%を占める一方、そのうち約74%で実際には仕事への悪影響が生じていた
- 過去に片頭痛と診断された経験があるにもかかわらず、現在通院していない人は約20%おり、「市販薬で対処できると思ったから」「通院する時間や手間が負担だから」といった認識が通院をしない背景にあることが示唆された
- 一方で、市販薬での対処に「完全に満足」している人は20%台にとどまった
- 片頭痛が原因で、月に合計19日分の、「通院に要する時間を大きく上回る規模」の生活時間が失われていた。この内訳は、仕事における欠勤・遅刻・早退・生産性低下により月10日分、いつも通りこなせない家庭のことで月5日分、いつも通り過ごせない趣味・余暇により月4日分であった
- 受診・通院をしない背景には、「症状を言い出しにくい/理解されにくいと感じる」といった、周囲の理解不足や偏見(スティグマ)の存在も示唆され、仕事においては約84%の人が「周囲に症状を言えなかった/症状を隠した/症状を理解してもらえなかった」と回答した
- スティグマが示唆される状況には性差も見られ、片頭痛の症状が出て無理をして働く理由として、女性は「代替が効かないことや、周囲の迷惑への不安」、男性は「職場の評価やキャリアへの不安」が多かった
- 周囲に片頭痛の症状を「言えなかった/理解してもらえなかった」と感じた場面として、女性は「職場」、男性は「家庭」「趣味・余暇」と回答した人が多く、沈黙を強いられる場面にも性差が見られた
- 過去に片頭痛と診断された経験があるにもかかわらず現在通院していない人において、医療機関で「予防・治療できる」とわかれば、約87%が「受診したい」と回答しており、片頭痛治療に関する適切な情報提供の重要性が示唆された

働く人の片頭痛に起因する経済損失額は、年間「約1.5兆円」

出勤しながらも、片頭痛が原因で「業務に支障をきたした」時間を年間で集計した「年間総生産性低下損失(プレゼンティーズム)」は、約6,200億円でした。また、片頭痛が原因で、欠勤・遅刻・早退した時間を年間で集計した「年間総欠勤損失(アブセンティーズム)」は、約9,500億円でした。

働く人の片頭痛に起因する経済損失額は、上記の欠勤などによる直接的な損失と、出勤していても生産性が低下する間接的な損失を合わせ、年間1兆5,700億円規模にのぼりました。



15歳～79歳の男女10,000人に聞く、「歯科医療に関する一般生活者意識調査 第2弾」

口腔トラブルとプレゼンティーズム※の実態

10代～30代の約半数が

口腔トラブルでパフォーマンス低下を経験

10代・20代は、コミュニケーションや会話、人付き合いなどの対人関係への影響を不安視

公益社団法人日本歯科医師会（所在地：東京都千代田区九段北、会長：高橋 英登）は、全国の15歳～79歳の男女10,000人を対象に「歯科医療に関する一般生活者意識調査」を実施しました。本調査は、当会の広報活動の趣旨である「歯科医療に対する国民の認知度・理解度向上」および「歯科医師や診療に対する評価・イメージの向上」に向け、現状の歯科医療を取り巻く環境や生活者の意識を把握し、今後の広報展開に役立てることを目的に、2005年からほぼ隔年に実施しているもので、今回で10回目になります。同調査結果によって、以下のような実態が明らかになりました。

※本調査では、仕事のみならず家事、学業においても歯や口の問題が原因でパフォーマンスが低下する状態を「プレゼンティーズム」と定義しています。

歯や口の中のトラブルはプレゼンティーズムの要因に！若い世代では対人関係に影響

- ◇ 歯や口の中のトラブルは、「集中力」「生活全般の質」「コミュニケーション・会話」「人付き合い」など日常生活でのパフォーマンス全般の低下に影響。歯や口の中のトラブルは、プレゼンティーズムの要因となっている。
- ◇ 若い世代では、「コミュニケーション・会話」「人付き合い」など対人関係に影響すると考える人が多い。

約4割が歯や口の中のトラブルで日常生活のパフォーマンス低下を実感

- ◇ 日本人の約4割が「この1年間に歯や口の中のトラブルで日常生活のパフォーマンスが落ちたと実感」（41.6%）。
- ◇ 若い世代はパフォーマンス低下を感じる人が約半数（10代46.6%、20代45.9%、30代47.0%）と多い。
- ◇ パフォーマンス低下を感じる歯や口の中のトラブルTOP3、「歯の痛み」「歯に違和感を感じる」「口臭」。
- ◇ パフォーマンス低下を感じる期間、歯の痛みは「2～3日程度」（26.2%）、歯の違和感は「2～3日程度」（23.1%）と比較的短い。口臭は4人に1人が「1年以上」（25.5%）もパフォーマンス低下状態に。

研究代表者 川口陽子

A. 研究目的

本研究の目的は、職域で発生している新たな歯科口腔領域の課題に対応するため、業務や就労環境、勤務形態等と口腔疾患との関連を把握すること、また、事業所で歯科介入研究を行う実証研究を通して、効果的な職域歯科保健対策を提示することである。

B. 研究方法

2019年度は南極等の特殊環境における遠隔歯科医療・健康管理システムに関する研究を行った。また、口腔保健状況と労働生産性、健康関連 QOL、職業性ストレスやストレス対処能力との関連について調査を行った。さらに、職域で活用できる口腔清掃法に関する健康教育教材(DVD)を制作し、歯の状況の自己評価に関する妥当性研究や成人の臼歯部咬合状態の分析を行った。実証研究のデータ等をもとに歯科受診行動、医療費、健康関連 QOL についての分析を行った。

C. 研究結果および考察

1. 業務や就労環境、勤務形態等と口腔疾患との関連

- 1) 大学が国立極地研究所および海上自衛隊歯科と連携して、以下の遠隔歯科医療・健康管理システムの構築を行った。①南極観測隊候補者の派遣前の歯科健診・事後措置の改善、②歯科保健指導の提供、③同行医師の歯科研修プログラムの充実、④昭和基地にある歯科医療機器や歯科材料の管理システムの導入、⑤歯科情報の共有と口腔内カメラおよびテレビ会議システムの導入。その結果、システム構築前より南極での歯科疾患の専門領域別にみた発生率は減少したことが確認できた。今後、国内外の歯科医師過疎地域や災害発生時等の特殊環境などにおいて、歯科の診断・治療・健康管理を効果的・効率的に展開していく際に応用可能であると示唆された。
- 2) 労働者 1,167 名を対象として口腔保健状況（う蝕、歯周病、歯の喪失）と労働生産性との関連について分析した。口腔の問題によるプレゼンティーズム（出勤しているが、心身の健康上の問題により仕事に対するパフォーマンスが落ちている状態）は 6.8%にみられた。ロジスティック回帰分析の結果、歯周病を有する者はそうでない者と比較して、プレゼンティーズムのリスクが約 2 倍高いことが判明した。歯周病は労働者のプレゼンティーズムに関連しており、労働生産性に影響する可能性が示唆され、職域において歯周病予防対策を行うことは重要と考えられた。

口腔健康状態が欠勤・プレゼンティーイズムに影響、労働生産性低下の要因に

2025年4月16日

口腔の健康問題による労働生産性の低下について、虫歯の数と口腔健康関連QOL（Quality of Life）やプレゼンティーイズム（出勤はしているが生産性が低下している状態）と有意に関連した研究成果は、*Journal of Dental Science*誌2025年4月号に発表された。

日本の産業企業労働者559人を対象とした横断研究

この研究は、口腔の健康状態（歯周病、虫歯、口腔健康関連QOL）が欠勤とプレゼンティーイズムに与える影響がある。日本の産業企業に勤務する559人の労働者を対象に実施された。研究者らは、労働者の健康記録から歯、さらに口腔健康問題による労働生産性の損失、職場ストレス、口腔健康関連QOLに関するアンケートを実施し、オッズ比（OR）と95%信頼区間（CI）は、性別、年齢、教育背景、職業、職場ストレス、現在の喫煙状況、分析を用いて算出された。

虫歯の数と口腔健康関連QOLが労働生産性に影響

調査の結果、559人の参加者のうち、口腔健康問題による欠勤を報告したのは6.6%、プレゼンティーイズムをティック回帰分析により、虫歯の数（OR=1.12、95%CI=1.02-1.24）がプレゼンティーイズムと有意に関連し、口腔健康関連QOLの低さは、欠勤（OR=2.48、95%CI=1.20-5.11）とプレゼンティーイズム（OR=5.00、95%CI=1.20-5.11）と有意に関連していた。特に口腔健康関連QOLの低さは、プレゼンティーイズムに対して5倍ものリスク増加を示しており、示された。

口腔健康問題が労働生産性に与える影響の重要性

この研究結果は、虫歯の数と口腔健康関連QOLの低さが、プレゼンティーイズムや欠勤と有意に関連しているが労働生産性の損失に潜在的な要因となることを示している。研究者らは、口腔の健康状態が労働生産性に与えてこなかった点を指摘している。今回の知見は、企業や健康政策立案者に対して、従業員の口腔健康管理の診や口腔健康教育プログラムの導入が、労働生産性の向上につながる可能性を示唆している。今後は、口腔健康につながるかを検証する介入研究が期待される。

今日を愛する。

LION

—参考資料—

2023年2月9日

ライオン株式会社

～歯科健診を上り多くの人に～

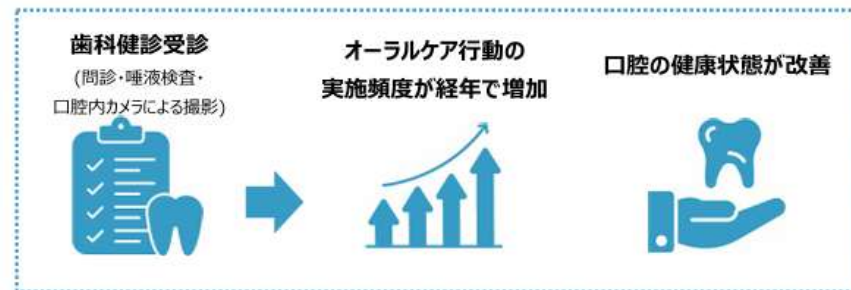
日立とライオンが健康診断データを解析

職域における歯科健診の導入が口腔及び全身の健康状態に寄与する可能性を確認

ライオン株式会社（代表取締役社長 堀川 正純）は、株式会社日立製作所の日立健康管理センタ（茨城県日立市）と協働で、職域における歯科健診の導入が従業員の口腔・全身健康に及ぼす影響について、調査研究を実施しました。2016年10月から2020年3月までの約4年間、日立健康管理センタで人間ドックを受診した従業員（年間約13,000名）を対象に、歯科健診を実施し、そのデータを解析しました。その結果、歯科健診の導入により従業員のオーラルケア行動の実施頻度が経年で増加し、口腔の健康状態が改善することが明らかとなりました。また、唾液検査指標^{※1}と全身健康指標^{※2}との間に関連性が認められ、口腔の健康状態が全身健康と関連することを見出しました。本研究の一部内容は、2023年1月27日（金）～28日（土）に開催された「日本総合健診医学会 第51回大会」にて日立健康管理センタと当社が共同で発表しました。

※1 唾液検査指標（唾液中の白血球値：歯ぐきの健康状態の指標）

※2 全身健康指標（CRP：全身の炎症反応により増加するタンパク質、HbA1c：赤血球中の糖化したヘモグロビンの存在割合。検査前1～2ヶ月間の血糖値を反映しており、糖尿病の診断にも活用される値）



■研究の背景

近年、歯周病が糖尿病をはじめとする様々な全身疾患の悪化の一因となる可能性が報告されており、口腔健康の維持増進に向けた取り組みは全身健康の維持にも非常に重要です。「骨太方針 2022」では、健康維持を目的とした国民皆歯科健診の概念が提唱されており、その施策の一つとして、企業の健康診断における歯科健診に対しても注目が集まることが考えられます。しかし、これまで、職域で歯科健診を実施することによる口腔や全身健康への影響を解析した大規模な調査研究は少なく、

世界中の論文の結論

プレゼンティーズムによる損失は
欠勤による損失よりも何倍も大きい

「歯が痛くて休む」よりも
「歯が痛いまま出勤」する方が損失が大きい

AGRIEXの歯科検診データ 470人

2026年1月～6月

A	治療必要なし	25%
B	要治療 痛みなし	40%
C	要治療 痛みがあった・痛みあり	35%

18 名 (カット・火傷・転倒)

A	1名	5%
B	5名	28%
C	12名	67%

AGRIEXの歯科検診データ 470人分

2026年1月～6月

A	治療必要なし	25%
B	要治療 痛みなし	40%
C	要治療 痛みがあった・痛みあり	35%

18名（カット・火傷・転倒）

A	1名	5%
B	5名	28%
C	12名	67%

歯磨きは している

歯医者には 行かない

デンタルルーム



福利厚生・プレゼンティーズムの改善

デンタルルーム



社会貢献活動





清掃活動



社会貢献活動については
こちら

イベント情報

ALL | 会員向け | 部会 | その他

JUL

11時00分～12時00分 | 募集中

22

【HCMC TT/LT地区部会】2026年度第2回TT/LT定例会開催 (7月22日)

JUL

15時00分～16時45分 | 募集中

24

【ホーチミン市北部部会】7月24日 (金)「セミナー開催のご案内」

お知らせ

2026年5月21日 |

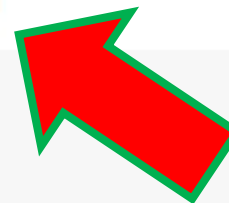
〈重要・注意喚起〉JCCH事務局をかたる不審なメールについて

2026年4月22日 |

「ホーチミン日本商工会議所ガイドブック2026」が完成

2026年4月22日 |

年会誌「メコンの風 (2025年度版)」発行のお知らせ



本日の内容

1. 医療従事者目線の労働安全衛生
2. プレゼンティーズム
3. 現在のベトナム医療事情

最近の医療事情

- ✓ 医師の方が立場が強い
- ✓ 手術をしたがる傾向、外科が好き
- ✓ ナースは白衣の天使ではない
- ✓ 器具の消毒・滅菌は大丈夫（たぶん）



- ✓ ホスピタリティは期待できない



都市部ではレベルの高い病院も多い

節目は2014年 投資法の大改革

以前は、

「ちゃんと治療するならバンコクかシンガポール」



日本人医療従事者は、コロナ前の2倍以上

- ✓ ハノイ・ホーチミンにしかない
 - ✓ 医師は20名弱ずつ
 - ✓ 歯科医師は3, 4名ずつ
 - ✓ ほとんどが30～40代前半
-
- ✓ 日系か外資系の クリニックか病院に勤務

医療保険

× ベトナムの健康保険

▲ 日本の健康保険

◎ 海外旅行保険 駐在者向けの医療保険



現在の駐在員はどうしている？

- ✓ 日常生活での受診は、まあまあ日本と変わらない
体調不良、風邪、生活習慣病
耳鼻科、眼科、皮膚科、婦人科、歯科
- ✓ 骨折、盲腸、出産の話も時々聞く
- ✓ 内視鏡手術も時々聞く
- ✓ 大きな外科手術



まとめ

- ✓ 保健室から労働安全衛生の情報を得る
- ✓ ヒヤリハットの認識の違い
- ✓ AED設置は有効
- ✓ ベトナムは感染しやすい
- ✓ プレゼンティーズムによる損失
- ✓ 日本人医療従事者は多い

連絡先



aki.ikushima@agx.vn



0901737057 Aki Iku

幾島 章仁 Ikushima Akihito